

＜編集後記＞

第14巻第1号を手にとってくださり、誠にありがとうございます。

本号も年度内に発行できる目処が立ったのは、編集委員の皆さん、また多くの方々の支えによるものです(とりわけ、編集事務局)。先ずはそのことに、ありがとうございますと今年も伝えたく思います。

投稿論文は、事例研究3件でした。昨年4月下旬、3度目の緊急事態宣言が4都府県に発令、5月末という本学会への投稿期日は、9都道府県に対して緊急事態宣言が延長された最中でした。そのようななか、本学会へ投稿いただいた(また投稿を検討くださった)会員の皆さんに敬意を表します。査読の結果、事例研究2件を採録できました。査読プロセスに加わっていただいた会員諸氏の御協力に御礼を申し上げます。また9月には、第14回となる学会大会がオンラインで開催されました。二つの課題研究シンポジウムの内容を本誌に掲載しています。御一読ください。

この後記を書いている今は、オミクロン株の流行に翻弄され、「ステルス・オミクロン」ということが言われ始めています。この2年間で大学キャンパスに一度も足を運ぶことなく修了する修士課程学生がいると耳にするようにもなりました。何かを知ることには利点のあるオンライン授業でしたが、何かを感じて何か行動を起こす、しかも予測困難な現場におけるそれをオンライン授業で学生が実感することは極めて難しい。大学(含む、キャンパス)で学ぶことの意味が所与のものだったこと、その「前提」だったことが何かを考え続ける日はまだ続きそうです。

次号15巻におきましても、会員の皆様からの本学会への貢献を願ってやみません。引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

初年次教育学会誌編集委員長 田中 岳(岡山大学)